



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	雑報
Citation	北海道大学農経論叢, 20, 247-247
Issue Date	1963-11
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/10821
Type	other
File Information	20_p247-247.pdf



編集後記

◎天高く馬肥ゆる澄景の秋に臨んで、ここに農経論叢第20集を「高倉教授在職35年記念号」として編集することの出来たのは私共の最もよろこびとするところである。

昭和6年本誌の前身である法経会論叢第1集が発行されてから数えて20集、本誌も形の上ではようやく一人前になった。この間戦時中の物資不足から一時中断されていた本誌の復刊をはじめ、諸般の都合による誌名の変更改題、教室研究機関誌として年1回発行を軌道に乗せるまで、本誌の歩んできた途は文字通り紆余曲折、まことに長いばらの道であったといわねばならない。

しかし、この幾度か逢著した困難に際して、終始一貫たじろぐことを許さず、常に温かくしかも厳しく、極めて剴切妥当な助言と叱正をおしみなく与えて下さったのが高倉教授であった。今日ここに第20集を発行することの出来たのも、一つには教授のこれ等の激励のたまものであり、これと共に教授の私共に対する学問上の指導を含めてその数々の配慮を思えば、私共は先生のその相貌の中に愛児を育む慈母の姿を認めざるを得ないのである。

ここにささやかながら本誌を記念号として教授に捧げることになったのも、本誌の生長振りを教授と共によろこぶためであり、また久しきにわたる御指導を感謝するためである。

◎本誌の編集に当っては、はじめに特に高倉教授の専攻にちなんだ時局的な問題を取りあげて、特集号を刊行しようという考えもあった。しかし日頃各人が最も力を注いで研究してきた課題を取りまとめて、これを公表する方が、かえって先生の該博にして深遠なる学風に叶っているのではないかという見地に立ち、とくに特集の形をとらないことにした。

本文12の論文は、いずれも最近における各人の研究業績の一端を取りまとめたものであり、その範囲は広汎にわたるが、ひろく農業経済学を学ぶ者にとって裨益するところが少なくないと思われる。とりわけ当教室出身の伊藤俊夫教授から玉稿をたまわったことは、錦上添花をそえるものであって、編集者としてこの上ない喜びである。

また冒頭には教室主任足羽教授より序文をたまわり、更に矢島教授からは御多忙中にもかかわらず、高倉教授についての回想を執筆して載いた。これ等の方々に対しては感謝の外はない。

◎尚、高倉教授在職35年の年は昭和36年に当るので、この年に記念号の刊行を計画していたが種々の都合により、記念号は本年刊行されることになった。刊行までに意外に多くの時日を費したのは甚だ遺憾であるが、本誌を教授のゆかりの日である誕生日の日11月23日に捧げて御寛恕を乞いたい。

(金田記)

農経論叢 第20集

昭和38年10月25日印刷

昭和38年10月30日発行

非売品

札幌市北9条西9丁目
北海道大学農学部農業経済学教室

編集者 金田 弘 夫

代表 足羽 進 三郎

発行者 北海道大学農学部

印刷者 三陽印刷株式会社
